

令和6年9月2日

大山町議会議長 米本 隆記 様

大山町議会議員 大原 広巳

令和6年大山町議会議員研修報告書

1	研修名	令和6年行政視察報告書
2	日時 研修地	令和6年7月10日(水) 豊岡観光イノベーション 豊岡市役所 令和6年7月11日(木) 養父市 ビジット奈義
3	参加者	16名(議員14名・事務局2名)
4	研修内容及び まとめ (意見・感想)	<p><b>1. 豊岡観光イノベーション</b> <b>【内容】</b> 一般社団法人である当団体の観光 DX・データ活用の取り組みについて学んだ。2016年の設立以来、インバウンド対応にも積極的に取り組み、外国人客数は57倍に達している。 また、豊岡市全域の地区ごとに目玉を決めて、市内の滞在時間を長くする情報発信をしている。なかでも、中心的な役割を果たしているのが、城崎温泉である。宿泊数や物販数などデータ化し、LINE を利用して共有し、タイムリーな宣伝や集客、収益アップにつなげている。。</p> <p><b>【まとめ】</b> これから始める大山町版DMOでは、何を取り入れ、何をはずすかを考えなければならない。息の長い取り組みになると思うので、まずは、人材確保が重要である。 特にマーケティング担当者となる職員を1年間、民間企業で経験を積ませてみてはどうか(小谷議員の提案)、CEO・プロモーション・ツアー商品などの責任者に専門家を配置すべき(大杖議員の提案)など、今後取り組むべきである。</p> <p><b>2. 豊岡市ジェンダーギャップ解消戦略</b> <b>【内容】</b> 5年前に高校生や20代の若者を対象に本テーマのワークショップを開催し、翌年に解消戦略会議を立ち上げた。個人、家庭、学校、職場、地域、行政ができることについて意見交換し、各年代の委員が行動宣言を発表する。</p> <p><b>【まとめ】</b> 近年あらゆる分野や世代にかかわらず、男女共同参画社会の実現に向けて、一歩ずつではあるが前進している。人権問題の一つでもあり、今後も解消につなげていきたい。 今回の視察で印象的だったのは、若い女性への起業支援が多いこと。事業所で</p>

の女性が働きやすい職場環境の推進に行政が先頭に立ち、推進会議の参加企業が増えていること。

本町ももっとワークショップなどを開催しなくてはいけないと感じた。

### 3. 養父市やぶ市民交流広場

#### 【内容】

整備方針で5つの場(文化芸術振興・生涯学習・情報発信・まちづくり・市民の憩いの場)の実現に向け、4つの機能(ホール・公民館・図書館・公園)を備えた文化施設。4町の合併を経て、令和3年に開館した。

#### 【まとめ】

本町も、3町の合併を経て、各地区の公民館のあり方が議論されている。養父市は、事情が全く同じではないが、本庁も人口減少が続くなか、こういう複合拠点施設も必要となるのか、今後町民さらなる検討が必要である。

個人的には、防災の観点から旧町単位に1個ずつはほしいが。役場、トレセン、公民館と総合的に検討しなければならない。

### 4. ビジット奈義

#### 【内容】

去年スタートしたばかりのDMOの取り組みを視察した。

まず、力を入れているのが、観光案内所の改善・強化であった。地産の物販の開発や、アートとグルメをからめたイベントの開催で、町外からの関係人口の増加につながっている。

また、土、日、祭日に町のデマンドバスを美術館などの観光地廻りの利用しているのも興味深い取り組みだと感じた。

#### 【まとめ】

基本的には、本町が目指す方向と同じではあるが、過去にも何度も失敗(業者間のしがらみ)して、奈義はやっとスタートしたと聞いた。

町とは全く関係ない民間(サントリー)から営業のプロを呼んだのも大きなチャレンジだと感じた。

民間と行政とのどういう連携が必要か、戦略も含めて強いリーダーシップが必要だと思う。

